

か、第5、6部の内容もかなり駆け足で取り上げられている感もあるが、第6部のように教科書として気象災害や気象調節をきちんと取り上げている本は少ないと思うので貴重である。本シリーズの目的の1つでもあるように、学問分野も広がり横の関係が重要視されつつあるので、一冊の本で基礎から応用まで広範囲の内容を取り上げるのも新しい傾向なのであろう。

この本は、著者がこれまで気象研究所やユタ大学で研究してきた事柄について、現在の気象大学の教官としての立場で書かれた本であることを強く感じる。教育効果を上げるために各章のはじめにはその章で取り上げる概略とポイントを要領よく簡潔にまとめている。練習問題も随所にふんだんに取り上げている。海外での教科書や日本の受験参考書によく見受けられる

スタイルではあるが、日本の大学の教科書にはこれまであまりなかったスタイルの教科書であるように思う。受験参考書や気象予報士の問題集、参考書に慣れた現代の学生にはとりつきやすいスタイルかもしれない。

先日、北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の学位論文の発表会でプレソーラー粒子 (Pre-Solar Grain) のニュークリエーションについての発表があった。物質は異なっているが雲物理学で雲粒や雨粒、氷晶で行ってきたのとちょうど同じ様な議論の展開がなされていた。本書が気象学の分野ばかりではなく他の分野の研究者にも幅広く利用されることを期待する。

(北海道大学大学院理学研究科 遊馬芳雄)

第51回理論応用力学講演会講演募集

開催趣旨：日本学術会議主催「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

主催：日本学術会議メカニクス・構造研究連絡委員会

共催：応用物理学会・〇化学工学会・土木学会・日本機械学会・日本気象学会・日本計算工学会・◎日本建築学会・日本原子力学会・日本航空宇宙学会・〇日本数学会・日本数値流体力学会・日本造船学会・日本物理学会・〇日本流体力学会・日本レオロジー学会・農業土木学会

(50音順, ◎：主幹事学会, 〇：幹事学会)

開催日：2002年1月22日(火)～24日(木)

開催場所：日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34)

ホームページ：本講演会に関する詳細・最新情報は、
<http://news-sv.aij.or.jp/nctam/>に掲載されています。

講演申込：オーガナイズドセッション、一般セッションいずれも、2001年9月21日(金)までに、本講演会ホームページからお申し込み下さい。

講演論文集原稿：審査の結果、採択された講演については、A4判2ページの版下原稿(およびPDFファイル)を提出いただきます(2001年11月29日(木)締切)。その際、整理費2,000円を申し受けます。

英文論文：著者の希望により発表論文を改めて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文 Proceedings に収録されます。

事務局：(社)日本建築学会研究事業部

(担当：鎌田、大野)

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20

Tel: 03-3456-2057, Fax: 03-34569-2058

E-mail: NCTAM@aij.or.jp